

南アルプス市における 住民主体の地域づくり

生活支援体制整備事業

第1層生活支援コーディネーター
齊藤節子



南アルプス市の概要（1）



南アルプス市は山梨県の西部に位置し、日本第2位の高峰「北岳」を有する自然豊かなまちです。

果樹栽培が盛んで、春のさくらんぼ、夏にかけてすもも、桃、秋にかけてぶどうなど年間を通してフルーツを楽しめる地域です。

平成15年4月に4町2村が合併して「南アルプス市」となりました。

令和2年4月現在人口71,370人
高齢化率27.27%

平成27年4月

- ・南アルプス市では 生活支援総合事業に移行しました。
- ・同時に生活支援体制整備事業にも着手
生活支援コーディネーターが配置されました。
協議体は設置されていませんでした。



生活支援体制整備
事業って？
協議体って？

ちょっとした支援があれば・・・

誰かのために……役にたてる力をもっている人たちとの出会い



だんだん、足腰が弱くなってね。
でも手作業が好き。
近所の93歳のおばあちゃんの
リハビリのために
材料を作っているんだよ。
それが生きがいだね

地域を歩いて気付いたこと

私らしく

最後まで住みなれた地域で暮らしたいなー

- ・ 介護サービスだけで「自分らしく暮らすは難しい」
- ・ 一人ひとりみんな違う「生活暦」「生活の価値観」
- ・ 心に残るのは「もし・・・があったら」
「こんなことができれば」

かなえてあげたい！

多様な社会資源
があったら！
それは行政だけでは難しい！
地域の応援
(協議体)が必要！

協議体のこと・SCのこと・・・みんなで共有したい

内部勉強会

H28.2月～8月 毎月1回
生活支援体制整備事業って
サービスづくり？
そうじゃない、
将来を見据えての地域づくりだよ
ね。
これまでの行政からお願いして作っ
てもらってあて職の協議体にしたくない
住民へどう伝えるか・・・住民主体

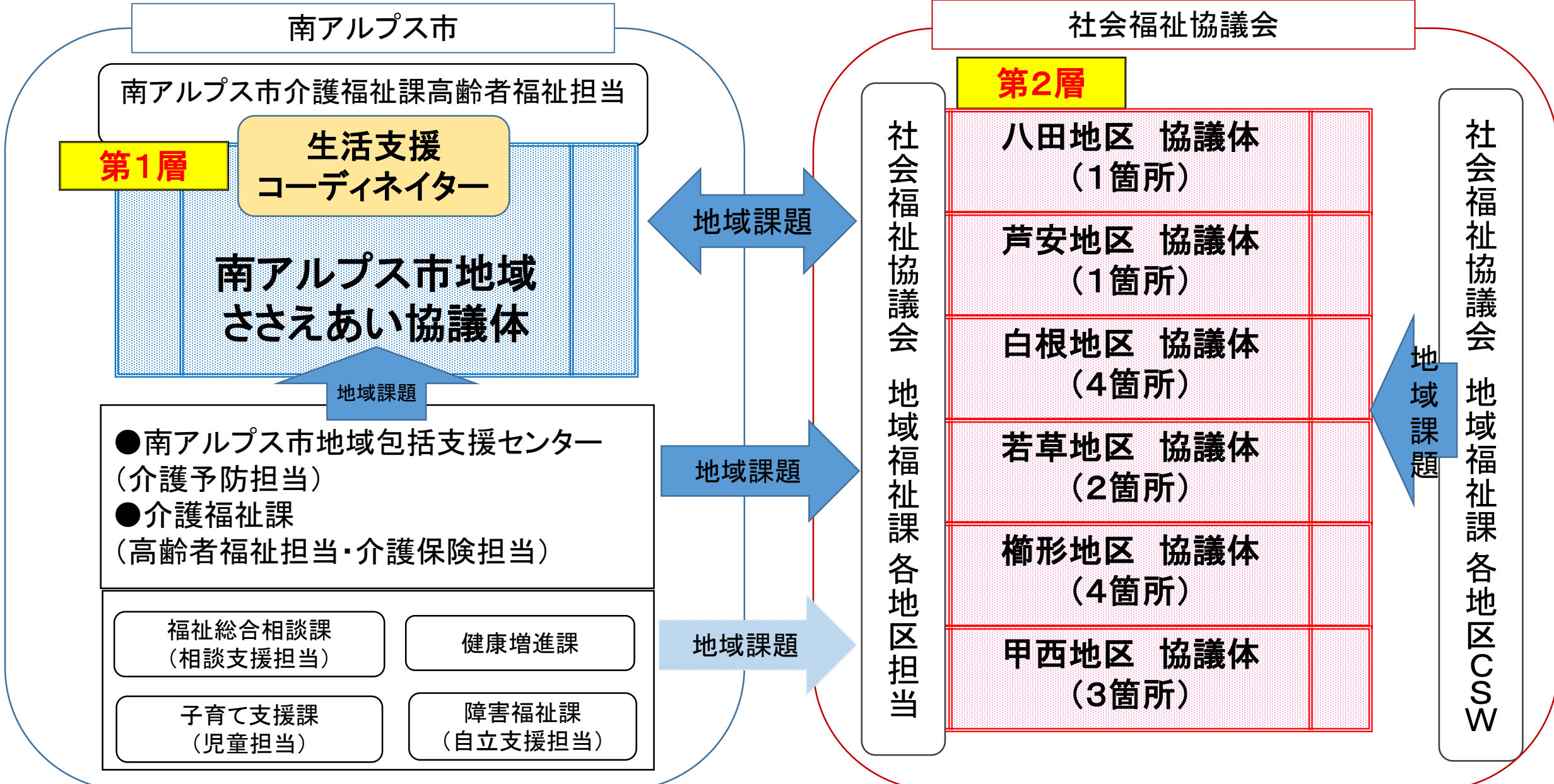


住民主体の地域づくり・・・

5人年後10年後を見据えて

- 少子高齢化・人口減少 わが町の厳しい状況 財源と担い手不足
- この問題はもう行政だけでは解決できない！もちろん行政も頑張るけど・・・
- 公的サービスだけでは自分らしく暮らせない
- 行政サービスは公平平等が基本だが、住民の助け合いは困っていればその人に・・・即応性と柔軟性
- この問題は福祉だけの問題ではない。縦割り解消 いろいろな分野が連携してはじめてできる！
- 何より自分自身がどう暮らしたいかなんだ！

南アルプス市 協議体体制図



住民主体の地域づくり……わかってほしい！ 「支えあいの地域づくりフォーラム」開催(H28.8月)



市民180名参加

この中から 59名が
手をあげた。

共感してくれる人が
いた！

熱の冷めないうちに
3回の勉強会へ

自分に何ができるのだろうか？きっとほかにも同じ気持ちの人がいる！力を合わせれば何かできる！



初めて考えた10年後の
自分の生き方！

住民主体の力を握る
人たち

情熱！
地域愛！
信頼感！

2016/9/20

住民の声を
施策に反映
させていき
たい

第1層協議体設置 H28.12.8

- ・住民代表6名
- ・民生委員会
- ・老人クラブ
- ・商工会
- ・農協
- ・シルバー人材センター
- ・青年会議所
- ・社会福祉協議会
- ・介護事業所
- ・市福祉保健部



話し合いのなかで・・・



2017/8/22

- 助け合いは、住民の心が動いて初めて生まれる！
- 助け合いは一気に広がらない！
- 仲間とつながる喜び
- 自分の能力が発揮でき、認めてもらえる
- お互いに「ありがとう」が言える
- その喜びを地域に作り出す
- 時間がかかるけど辛坊づく

第2層地域支えあい協議体が誕生そして第3層へ (小学校区) (自治会圏域)

地域の支えあいを考える会開催
(小学校区各地で)



手を上げた方たちの勉強会
わいわいがやがや・・・大事



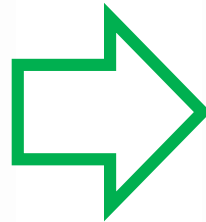
賛同者による協議体誕生
たとえ少数でも・・・
一人から二人へ・・・



協議体と住民主体の地域づくり

～5年後、10年後の未来のために～

これまでは



これからは



イベント型社協

- 社協が主体でイベント企画（毎年恒例？）
- 協力者は毎回同じ顔触れ
- 福祉は他人事化している
- 複雑・多様化している個別ニーズや地域ニーズへの対応ができず

CSW
(コミュニティソーシャルワーカー)
制度の狭間・地域の狭間で
悩んでいる人が増えている。
地域のつながりが薄い。
福祉職だけでは対応しきれない。

少子化超高齢社会が増々勢いを増す中、このままでは
「**い**だんの **く**らしの **し**あわせ」が実現できるのか？



個別・地域ニーズ支援型社協

個別ニーズから地域ニーズへ 地域支援から個別支援へ
住民主体の地域づくり

いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らすために

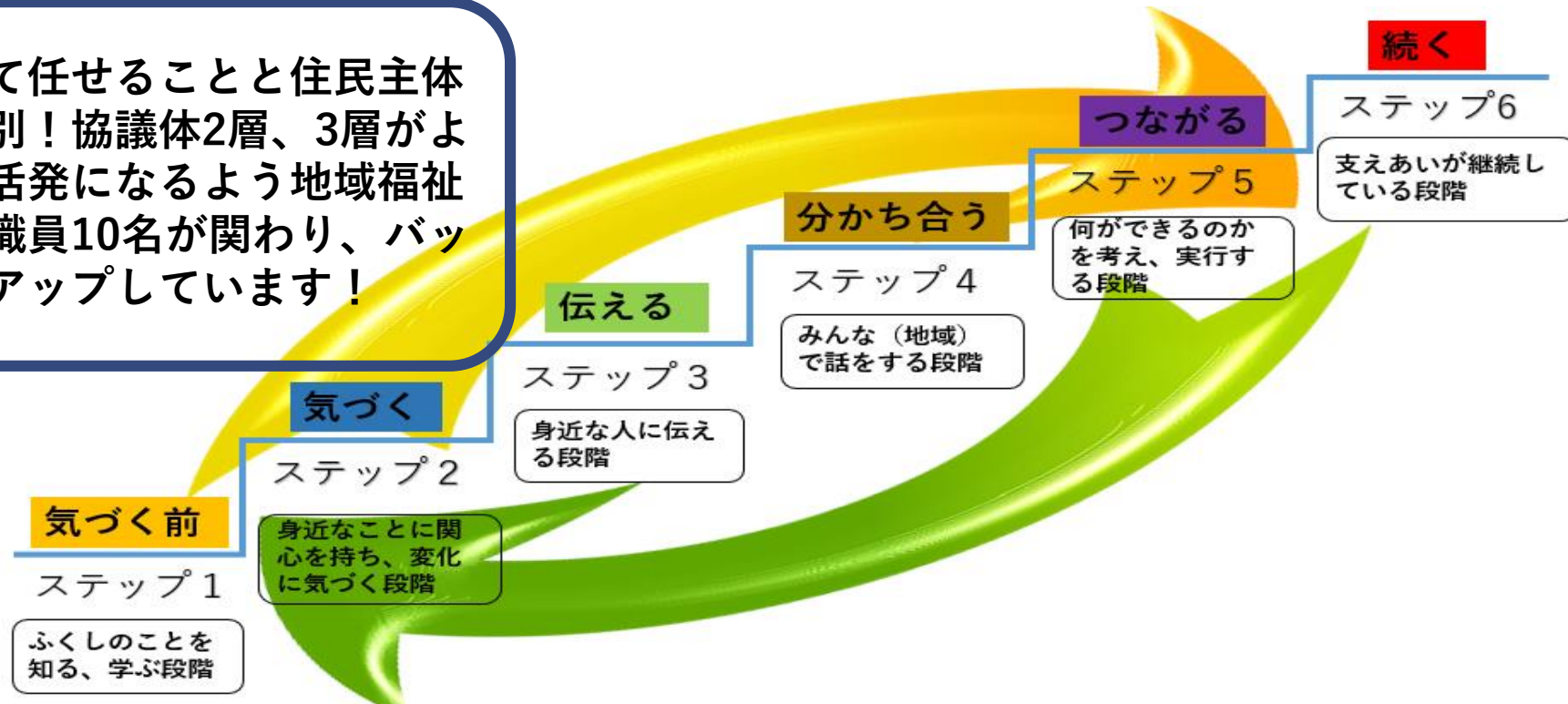
南ア社協は今こそ変わる時！協議体を軸に地域づくりを！
「**い**つうの **く**らしの **し**くみ」づくりに移る時期が来た！

第4次地域福祉活動計画に協議体を位置づける ステップ方式について



第4次活動計画では、ふだんのくらしのしあわせを実現するためには、日ごろから小さな変化に目を向けること、そして人と人とがつながることが大切だと考え、共通テーマとして「気づきからつながり」を掲げました。ふくしや地域への関心の度合いは、人それぞれですが「ステップ方式」は、個人や地域の現状がどの段階なのかを考えた後、それぞれの立場で取り組める内容を明確にすることができます。

全て任せることと住民主体は別！協議体2層、3層がより活発になるよう地域福祉課職員10名が関わり、バックアップしています！



協議体の基本目標

- ① いつまでも住み慣れた地域で
元気に暮らせる
- ② お互いに支えあう

人づくり・地域づくり

支えあうための主な活動



小学校区に「福祉のことを話し合う場」が 生まれました



更に、より身近なところで活動するために自治
会圏域に話し合いの場が移行しています！

2層と3層の活動



Q いつ、どこで、何をしているの？

地域によってばらつきがありますが、2層も3層も毎月1回開催しているところが多いです。地域の公民館や公共施設で開催しています。地域の困りごとを出し合ったり、どんなことができるのか、どんな居場所があるのか地域を見つめ、話し合いを進めています。話し合いの中から活動につながっている地域もあります。

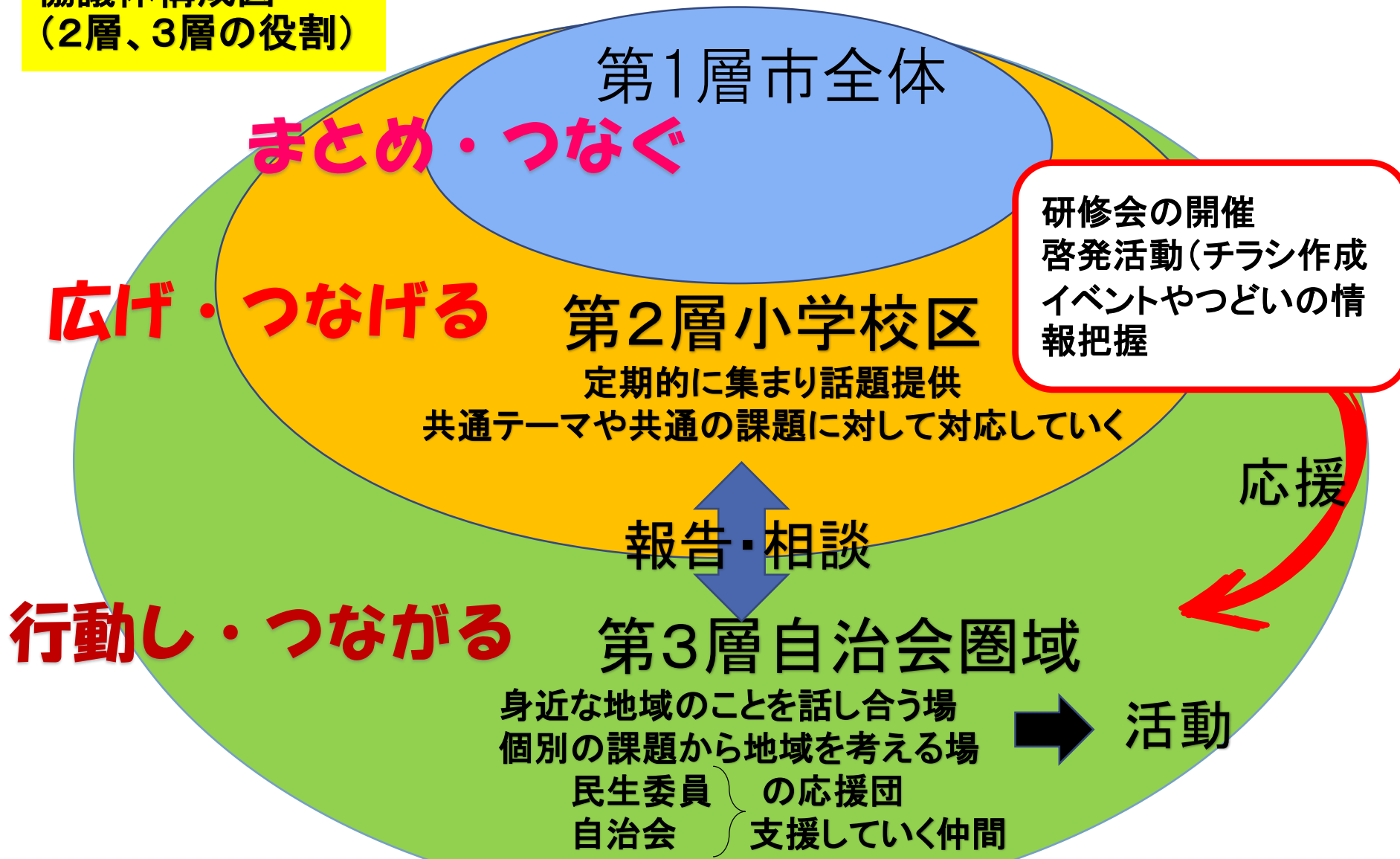
Q 誰が参加してるの？（地域により様々です。）

地域のことを考えたいという有志の方、自治会関係者、民生児童委員、老人クラブ、各種団体、福祉施設の職員など様々な方が関わっています。

Q 何のためにするの？

参加者や形は様々ですが、国の施策に基づいた生活支援体制を実現するための取り組みです。災害と一緒に地域の支えあいやつながりづくりは、何かあってからでは手遅れになります。そして、そこに住む人たちでなんとかしないとなりません。少子化・超高齢社会は更に勢いを増します。だから、今からできることをみんなで考える必要があります。

協議体構成図
(2層、3層の役割)



時は1歩進んで2歩下がる時も…。運営をサポートしていく上での悩み協議体自体の課題を出し、解決策を考えると共に市と社協の方向性の再確認するなど少しでも協議体の後押しができるように月1回運営意見交換会を実施しています。

第2層・第3層でこんな活動が生まれました

- 月1回買い物ツアー
- 休耕田の有効活用
- 高齢者や障害者の外出支援
- 高齢者のちょっとした困りごとの支援
- 公民館開放日開設
- 一坪図書館
- 誰でも参加可能のサロン(元新興住宅街)
- 百歳体操の開催
- 百歳体操後の移動販売
- 避難訓練への協力
- セーたら推進会議
- 防災をキーワードに地域づくり
- 今ある資源の確認
- チラシづくり、広報誌の配布
- 寸劇でのPR活動



成果

- 住民の方が主体的に動いている
- 今まで社協（福祉）にあまり関わりのない方、初めて見る方の参加があった
- 男性の参加が増えた
- 地域のこと（困りごと）に目を向けてもらえた
 - 自分事に捉え、考えてもらえた
 - 人に関心を持ってもらえた
- 代表と副代表を決めたことで責任感が生まれた
- 地域の資源を知ってもらえた
- 居場所が増えた
- 個別支援の活動を通して生活支援が生まれた



-
- 社協を身近に感じてもらえた
 - 社協職員の質の向上、スキルアップにつながった
 - 社協のやってきたことが正しいと理解でき、社協の将来像が見えた（役割の明確化）

課題

各協議体それぞれの温度差

自治会と民生委員との関係

モチベーションの維持

役職・任期終了後に不参加

協議体の理解度が低い

活動に移れない

協議体参加者の高齢化

地域ニーズの把握が難しい

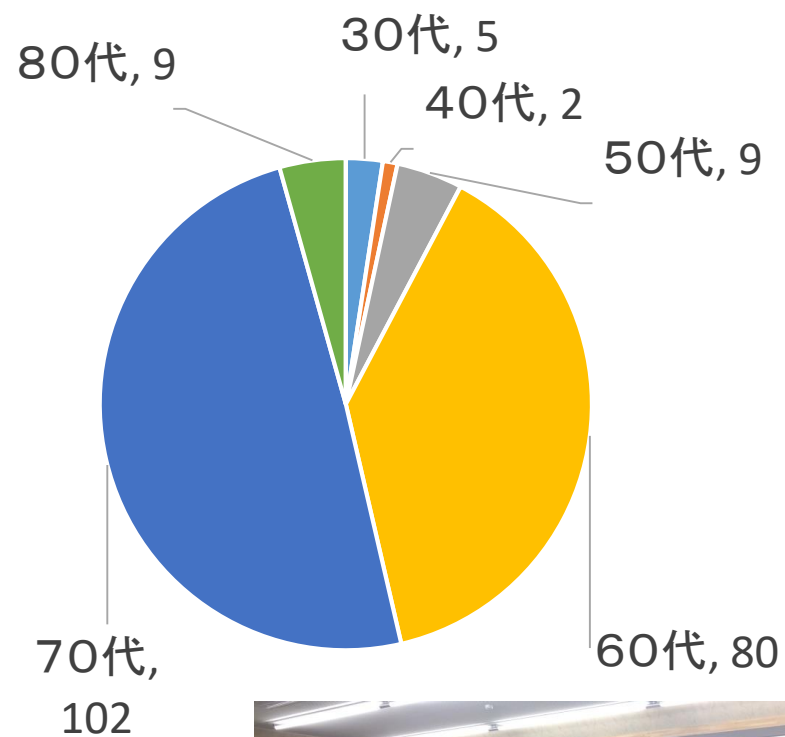
コロナ禍でなかなか動けない

2層では地域が大きすぎるが3層では参加者が少なすぎる

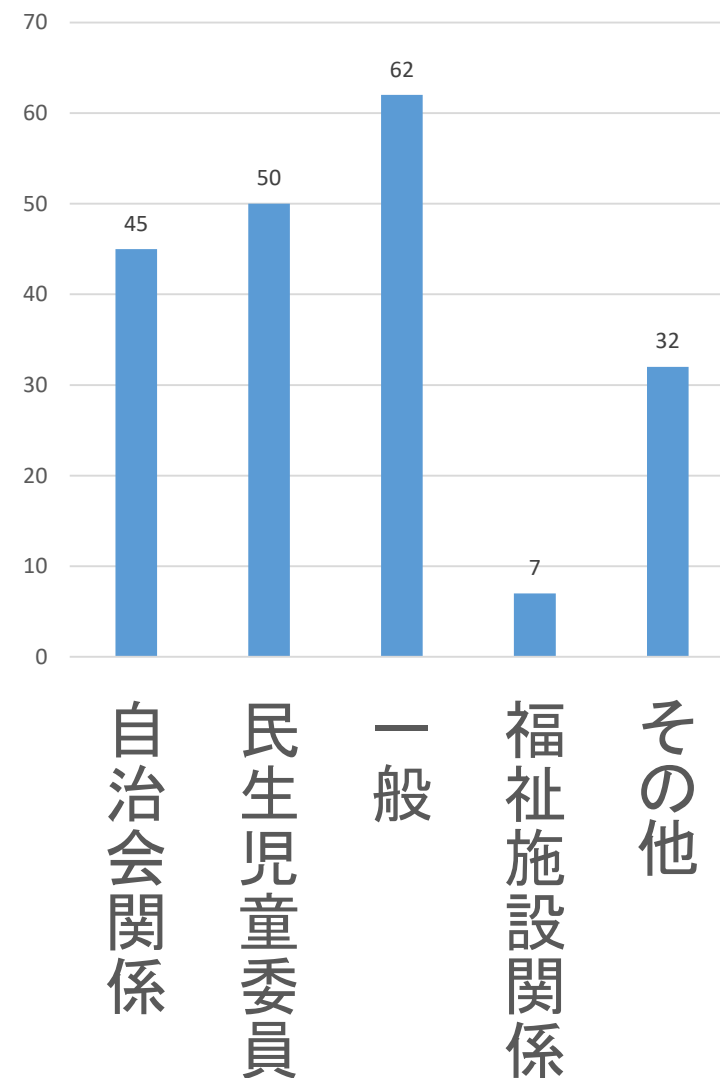


2020アンケート結果より 協議体メンバー回収率49%(208名/424名)

年齢構成

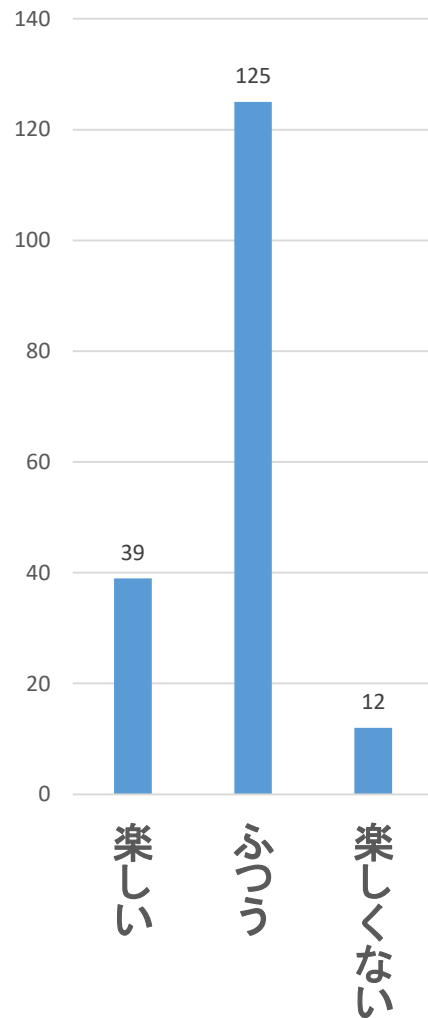


所属

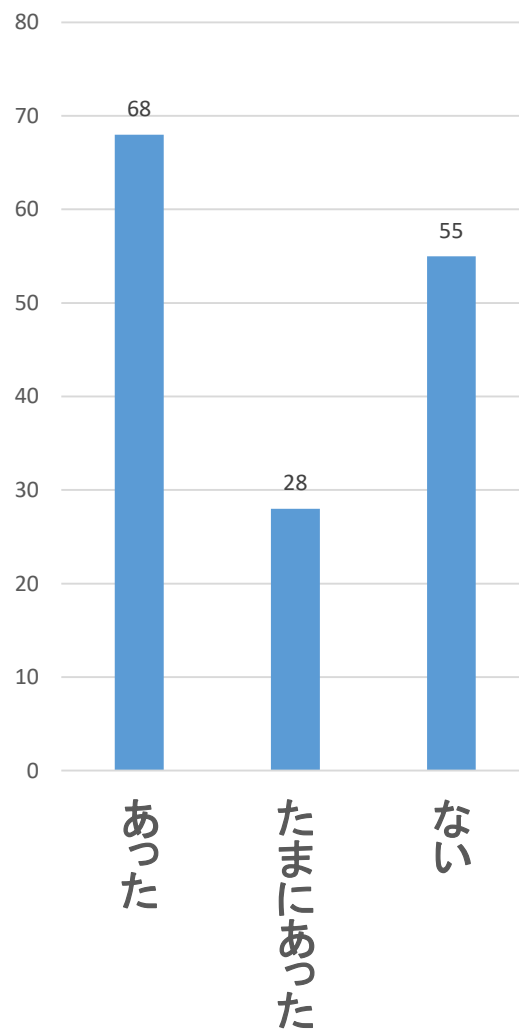


2020アンケート結果より

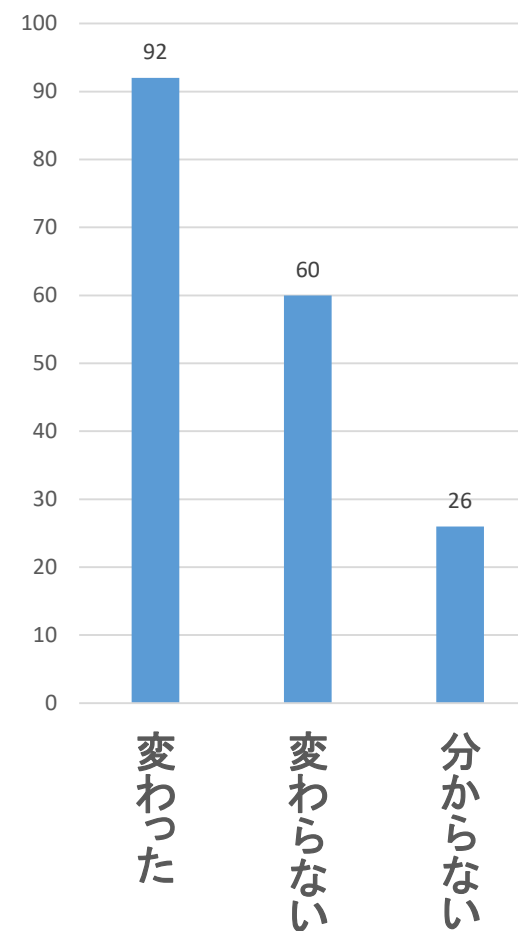
問4 協議体の活動は



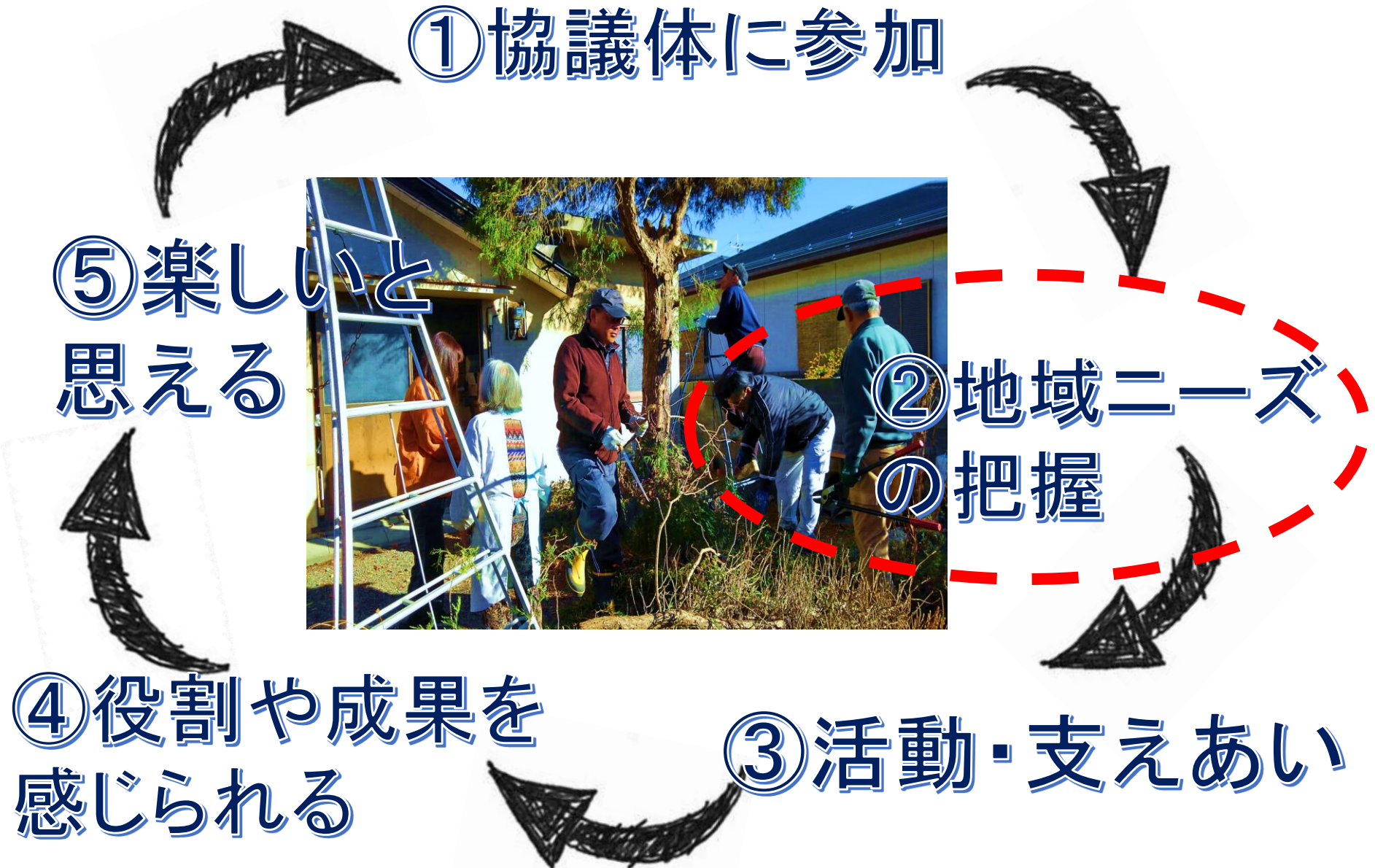
問8 専門職との連携はあったほうが良いと思ったことは



問11 協議体に参加する前と後で福祉への関心は



魅力ある協議体を目指して



これからは専門職とつながりたい

①



インフォーマルサービスで地域にこんな支援があったらいいな。こんな地域だったら住みやすいのに。

包括支援センター職員
ケアマネジャー

②



社協職員
協議体担当者

一度社協の協議体担当に相談してみてください。

⑤



2層協議体活動

活動を通して困っている人を支援します。

④

第3層コーディネーター機能



2層・3層協議体話し合い

③



2層協議体代表者
または協議体メンバー



担当から協議体の代表へつながります。(面接もしくは代弁)

協議体の話し合い時に代表より提案。地域のニーズを把握し、自分たちにできることを考えます。

5年後、10年後もっと地域が住みやすくなるために
市も社協も全力でサポートしていきます。



ご清聴ありがとうございました